

マルチクラウド環境における 企業データの保護に関する 2022年調査レポート

日本の状況

クラウド運用のレイヤーと、CSPのツールが企業データの可視性
とデータセキュリティにもたらすギャップをご確認ください。

デジタルトランスフォーメーションとクラウドへの移行がITの複雑さに与える影響の大きさ



日本の回答者の**91%**が、自社のデータフットプリント全体を追跡するには何らかの改善が必要と回答

世界の回答者の割合は**96%**

日本の回答者の**50%**が、クラウド環境に保存されているデータを「完全に可視化」していると回答

世界の回答者の割合は**59%**

クラウドのデータを保護する責任に対する日本の企業の理解度



日本の回答者の**86%**が、
クラウドのデータを保護する責任について
理解していません (世界の回答者の割合は**94%**)

「CSPはインフラのみを保護し、アプリケーションとデータの保護の責任は顧客にある」

日本の回答者のうち、クラウドの責任共有モデルに対する自社の理解度に基づいて上記の正しい文章を選択した割合は、わずか**14%**でした。

CSPのバックアップツールとリカバリツールの使用がもたらす影響

クラウドベースのデータに対するランサムウェア攻撃で日本の企業が受けた主な影響



日本の企業がデータ保護とディザスタリカバリを確実に行うために採用している方法



日本の回答者のうち、自社のデータを継続的にバックアップしていると答えた割合は、**3%**という驚くべき低さでした

データのバックアップ間隔が12時間を超えていると答えた割合は**70%**でした



詳しくは次のURLを参照してください。

veritas.com/ja/jp

V1712 11/22

企業は以下を把握することで、ランサムウェア、サービス停止、自然災害による影響を軽減し、チェックポイントを設定できます。

- CSPのデータ保護製品への依存度
- クラウド内にあるビジネス上重要なデータ
- データとアプリケーションに対する保護対策
- 堅牢で包括的なソリューションによるセキュリティ、パフォーマンス、コスト上のメリット